

第2次田原市総合計画(案)の概要

総合計画 策定の目的

田原市では、平成 15 年(2003 年)の市制施行後の平成 19 年(2007 年)3月に「第1次田原市総合計画」を策定しました。
平成 25 年(2013 年)3月には、世界経済の大幅な落ち込みや東日本大震災の発生などを受け、「改定版第1次田原市総合計画」を策定し、まちづくりを推進してきました。
その後、人口減少・少子高齢化が加速するとともに、世界的な新型コロナウイルス感染症のまん延、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギーや物価への影響など、我が国を取り巻く社会・経済の動向はめまぐるしく変化しています。

このような変化の中で、デジタル技術の急速な進化や働き方改革の推進等により、人々の暮らし方や働き方に関する価値観が変わり、ライフスタイルの多様化や大都市の便利な暮らしから地方での豊かな暮らしを選ぶ動きも見られます。
また、「気候危機」とも言われる地球温暖化が進む中、国は「2050 年カーボンニュートラル」を宣言し、達成に向けて再生可能エネルギーの活用等、脱炭素社会の実現に向けた取組が求められており、今後、温室効果ガスの排出量削減に向けた取組が重要です。

本市では、平成 17 年(2005 年)をピークに人口が減少しており、今後もさらなる人口減少が続く、高齢化の進行も予想されるため、税収の減少や社会保障関係費の増大などにより、これまで以上に厳しい財政運営が予想されます。
このような状況に対応するためには、これまで掲げてきた「うるおいと活力のあるガーデンシティ」という将来都市像を踏まえるとともに、人口減少を前提とした持続可能な地域社会の実現を目指す必要があります。
将来に向けて、市民の皆さんとともに中長期的な視点から総合的かつ計画的にまちづくりを進めていくため、市政運営の基本的な計画として「第2次田原市総合計画」を策定するものです。

<計画期間> 令和6年(2024年)度～令和15年(2033年)度

<計画の構成>

※各項目の視点

将来都市像として、「うるおいと活力あふれるガーデンシティ～みんなが幸せを実現できるまち～」を掲げました。

これは、海と緑に包まれた渥美半島で、活発な産業と豊かな暮らしが共存する、美しく誇りあふれる田園都市の実現を目指すものです。

また、時代が変わっていく中であっても、誰もが幸せを実現することができる環境をつくるため、市民や事業者、団体、行政などが連携し、まちづくりに取り組んでいきます。

グローバル化や地球環境問題の深刻化、少子化・人口減少、国際情勢の不安定化など、社会情勢が大きく変化する中であっても、豊かな自然環境と活発な産業を次世代につなげ、そして多様な市民一人ひとりが幸せや生きがいを感じ、地域や社会全体に幸せや豊かさが広がる田原市を目指します。

○将来都市像を実現するため、これからの田原市の行政運営の基本的な考え方となる「まちづくりの方針」と「土地利用の基本的な考え方」を定めます。

○社会潮流、本市の現状、市民意識の状況等から整理した「田原市の課題」を克服し、将来都市像の実現を図るため、分野を横断して重点的に取り組む3つのテーマを設定します。

○総合計画を構成する施策の枠組み(分野)を示す「施策の大綱」を設定し、分野別に基本事業・事務事業を体系化します。

○全7分野・38施策ごとに、「施策の目指す姿」・「現状と課題」・「目標指標」・「主な取組」・「協働の取組」を示します。

【将来都市像】P30

うるおいと活力あふれるガーデンシティ
～みんなが幸せを実現できるまち～

【まちづくりの方針】P31

- ◆田原の強みを活かしたまちづくり
- ◆参加と協働による持続可能なまちづくり
- ◆連携により成長し続けるまちづくり

【土地利用の基本的な考え方】P36

- ◆地理的条件を克服する広域ネットワークの構築
- ◆地域の特性と役割を意識した市街地の形成
- ◆地震・津波、風水害等の災害への対応
- ◆半島ならではの個性を活かした魅力づくり

【分野横断的に取り組む重点テーマ】P44～47

- ① 住み続けたいまちづくり
～人口減少に適応した活力のあるまち～
- ② 住んでみたい・訪ねてみたいまちづくり
～地域ブランド力を高めた魅力あふれるまち～
- ③ 未来につながるまちづくり
～誰もが暮らしやすい持続可能なまち～

【施策の大綱】P48・49

